

王将フードサービス (コード 9936・大証1部〔100株〕)

業績推移(連結)

(予想数値は会社発表分。単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		伸び率		伸び率	純利益	配当		
07.9: 第2Q	24,766	+4.2	2,759	+4.6	67.5	12.0	17.8	11.1
08.9: 第2Q	26,863	+8.5	3,152	+14.2	81.8	17.0	20.8	11.7
08.3	49,767	+5.4	5,250	+0.3	124.3	35.0	28.2	10.6
09.3(予)	52,846	+6.2	5,439	+3.6	132.8	35.0	26.3	10.3

ギョウザを中核とする大衆中華料理店チェーン

特色...「ギョウザ」をメニューの中核に据えた大衆中華料理店チェーンで、幅広い顧客層を獲得できる“中華”業態、高いリピート率と多様な立地で出店可能な“日常食”業態であることが強み。08年9月末現在の店舗数は521店(直営、FC合計。中国大連の5店を含む)で、このうち約60%が関西地区(308店)で占められる一方、関東地区、東海地区への出店も拡大。

既存店堅調で今期第2四半期は増収増益に

既存店売上が4.6%増に...今期の第2四半期(4月1日~9月30日)は、料理・接客技術などの向上を図って強みを最大限に生かしたことや「ぎょうざ倶楽部会員募集キャンペーン」を今年も8月から開始したことに加え、関西に比べて認知度の低い関東・九州方面においてTV番組などのメディアによる宣伝効果が大きかったことなどから、売上高は前年同期比8.5%増となった。増収効果で、食材価格の高騰、ガス代・減価償却費などの増加を吸収し、営業利益(30億7,100万円)は同10.6%増に。経常利益についても同14.2%増となり、売上高とともに過去最高を更新した。新規出店は11店(うち直営7店、FC4店)で、退店は無し。既存店売上高(直営店)については同4.6%増、既存店客数も同3.1%増で、外食業界全体が苦戦する中、同社では好調に推移している。また、既存店6店の大規模な改装と、関東地区での店舗増に対応するため船橋工場全面改築を実施した。なお、主力メニューのギョウザ(餃子)を今年5月1日から1人前20円(税込み21円)値上げしたほか、持ち帰り容器代の一部顧客負担を今年2月より実施しているが、他のメニューについては価格を据え置く方針。

新規出店効果も加わり通期も過去最高業績へ

増収増益予想...今期の通期では、売上高が6期連続増、経常利益は8期連続増の見通しで、前期に続いて過去最高業績を更新へ。年間配当は35円を予定している。会社側では今期の既存店売上高(直営店)を前期比2.1%増と想定。10月以降の月次での既存店売上高は、10月が7%増、11月も9.3%増で、堅調な動きとなっている。第3四半期に入ってから世界的な穀物価格の高騰に伴う小麦粉、豚肉、食用油などの価格高騰の影響が予想されるものの、増収効果でカバーできそう。通期の新規出店(国内)は24店(うち直営17店、FC7店)、退店3店を計画しており、中国大連の5店舗を含めた09年3月期末の店舗数は531店(前期末比21店の純増)へ。既存店の大規模な改装は通期で15店(上期6店実施、下期9店計画)を予定。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。